

理事長就任のご挨拶



今年5月21日当連盟の社員総会において役員改選が行われ、蠣崎理事長の後を継ぎ、新理事長に就任させていただくことになりました。

理事長を推薦された折には、私としては、重職であること等を考慮すると務まるかどうかと考えましたが、当連盟を創立した先人のろう者は、手話を、自分たちの言葉として継承し、発展させ、情報の獲得や意思疎通の手段として大切に育んできました。一方、手話を使うことは、教育現場で禁止され、または社会の中で差別を受け、もしくは偏見を持たれるなど、長い苦難と闘ってきた先人のろう者のおかげで、現在、全国的に「手話は命」と合言葉として手話言語条例の制定の拡がりが見られるようになってきました。

北海道は、手話言語条例については検討中であり、また聴覚障害情報提供施設も全国での未設置は北海道のみとなっているなど課題が山積みになっています。先人のろう者の思いを受け継ぎ、温故知新に取り組むことで、次の世代を担う若者たちの育成の一助になるのではないかと思います、お引き受けすることとしました。

私がこれまでの人生の中で経験したことは、数々の困難の中で「あきらめない心」を持ち地道に取り組んでいくことが課題を乗り越えていくと確信しております。

今後は、蠣崎理事長のもと学んだことを継続・活かしながら、新たに加わった役員・職員を含め、皆さんの力の輪を結集することで、100年続く連盟の土台づくりをさせていただき所存でございます。今後とも変わらぬ温かいご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

公益社団法人北海道ろうあ連盟
理事長 山根 昭治

北ろう連のご発展を祈願して ～理事長退任のご挨拶～



1995年（平成7年）に、2期4年に渡り連盟長を担われた故藤原弘實氏の勇退により第10代連盟長（後に理事長）に就任いたしました。当時を顧みますと就任3か月前の1月には未曾有の阪神淡路大震災が発生し、連盟は北海道手話サークル連絡協議会等3団体と連携し、「阪神大震災聴覚障害者支援対策北海道委員会」を立ち上げ、義援金の募集に取り組むなど慌ただしい時期でした。

また、テレビドラマ「星の金貨」「愛していると言ってくれ」が茶の間の人気を集め、手話ブームに火がつき、手話サークルの会員増につながったことを記憶しています。

28歳の時に、初めて理事に当選して以来、44年の歳月が流れました。人生の大半をろうあ運動と共に歩み、全国の仲間と連携し、道路交通法の改正、民法11条の改正、手話通訳の制度化を目指すアイラブパンフ運動、聴覚障害者を不適合者と規定した差別法規の撤廃運動、手話言語法の制定を求める運動等など様々な課題に取り組んできました。

厳しい障壁を乗り越え、粘り強い運動の結果は、ろうあ者にも自動車運転免許取得の道が拓かれ、自治体に手話通訳の設置が広まり、職業選択の自由が保障され、ろうあ者の薬剤師や医師が誕生するなど数々の成果を上げてきました。こうした取り組みに、私自身も微力ながら関わり全国の仲間と共に歴史を変える大きな偉業を達成したことは貴重な体験であり、誇りに思います。

さて、連盟のトップとして22年間重責を担ってまいりましたが、至らない点が多々あったものの、尊敬してやまない故田中皎一元連盟長、故藤原弘實前連盟長、志半ばで若くしてこの世を去った坂本秀男元事務局長をはじめ、理事監事の皆さん、会員の皆さん、手話関係団体の皆さん、連盟職員の皆さんなど非常に多くの方々に支えていただき感謝に堪えません。衷心より厚くお礼申し上げます。

今後は、連盟の参与として、また一会員として、山根昭治新理事長を軸とした新体制を支え、手話言語法の制定、聴覚障害者情報提供施設の設置など数多くの課題克服に皆さまと共に立ち向かっていきたいと存じます。

最後に、公益社団法人北海道ろうあ連盟のますますのご発展と関係する皆さまのご健勝ご活躍を祈念して退任のご挨拶とします。

長い間、格別のお引き立てを賜り誠にありがとうございました。

前理事長 蠣崎 日出雄